

振付・構成・演出・ダンス

笠井 叡

長唄 杵屋勝之弥連中

鳴物 六郷新之丞連中

独舞
花粉革命



二〇〇三年十一月八日(土)

開場午後四時三〇分 開演午後五時

京都芸術劇場〈春秋座〉 京都造形芸術大学内

独舞 花粉革命

二〇〇三年十一月八日(土)

開場 午後四時三〇分 開演 午後五時

京都芸術劇場〈春秋座〉 京都造形芸術大学内

※公演終了後、シンポジウムを開催致します。

「花粉革命について」 笠井 叡

シアタートラムの独舞公演のタイトルに、最初に心に浮かんだのが「花粉」という言葉だった。少し恥ずかしかった。果たして自分の中に、「植物的な生命」あるいは「自然的な生命」をイメージする言葉とダンスを、「公演」という公の場において結びつけて表出する意図を持っているのか、と言うことに対して。

その後「花粉」という言葉が退いて、「革命」という言葉が浮かび上がって来た。もうダメだ。：東洋においては「革命」という言葉は社会革命ではなく「天命が変わる」という意味だ。それは遺伝子操作や生命科学のような技術の側からの生命全体の革命ではなく、身体の内側から、人間が自分の生命そのものに働きかけることによって生ずる「革命」である。そこでこの二つの言葉を結びつけて「花粉革命」にした。

ダンスほど直接「生命それ自体」からこみ上げて来る力に触れなければならない作業はないだろう。だからダンサーはダンスから「こみ上げて来る生命」をそぎ落としたと思う。それは役者が生のままの感情表出を避けたいと思うことに共通している。

けれども、ダンサーと言う直接生命に関わらざるを得ないものとして、遺伝子情報が生命の本質であるとは考えられない。それは生命の光の影、あるいは生命のひとつの現象である。生命は操作されるものではないから。

生命、革命されるもの
無機的生命が海中生命に変わる
海中生命が陸上生命に変わる
陸上生命が宇宙生命に変わる
そして宇宙生命が……生命に変わる

美しくも醜悪な情報化された私たちの身体。この身体はしかし供犠にささげられる。ダンスを通して。それは生命から最も遠ざかったところでなされる「終りのない供犠」である。
花粉革命—無限の供犠。

笠井 叡

60年代、土方巽、大野一雄と共に舞踏の創生期を築く。
71年より「天使館」を主宰、多くの優れた舞踏家を輩出する。
79年オイリュトミー研鑽のため渡独、85年帰国後よりオイリュトミー公演を精力的に行なう。
94年「セラフィータ」でダンス活動を展開。
近年、木佐貫邦子とのコラボレーションや、若手ダンサーの振付け、「Akira Kasai ダンスユニット」の結成など、ダンサー／振付家として新たな展開を見ている。
作品に「トリスタンとイゾルデ」、「Spinning Spiral Shaking Strobe」、「花粉革命」、「銀河計画」、「nobody Eve—誰でもないもののイヴ」などがある。

会 場： 京都芸術劇場〈春秋座〉(京都造形芸術大学内) TEL.075-791-8240

料 金： 一般 前売 3,500円 当日 4,000円
学生&ユース(25才以下) 前売 2,500円 当日 3,000円
※全席指定
※学生&ユース券は学生証か年齢のわかるものをご提示ください。
※未就学児童のご入場はお断りします。

チケット取扱： チケットぴあ TEL.0570-02-9966 [Pコード=412-756]、TEL.0570-02-9999 / 舞台芸術研究センター TEL.075-791-8240

お問い合わせ： 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 TEL.075-791-8240 FAX.075-791-9438 E-MAIL info@k-pac.org

舞台監督=中田 節 [舞台企画アルファ]

照 明=渙 義則 [SFC]

音 響=加藤陽一郎 [SFC]

宣伝美術=MATCH&Co.

宣伝写真=笠井 爾示

宣伝照明=まつくましんいち

宣伝ヘアメイク=三井 健

宣伝美術協力=広松美佐江

制 作： 魁文舎

協 力： 天使館

主 催： 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
Kyoto Performing Arts Center



京都芸術劇場〈春秋座〉 (京都造形芸術大学内)

- JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分)
- 市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から
→京都市バス204循環に乗り、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電鉄「出町柳」駅から
→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。
→タクシーで10分
- 駐車場はございません。